

第一二四号

東海書道藝術院

東 書 藝

会
報

平成 26 年 12 月

<http://www.toshogei.jp/>

'14 東書藝夏期研修会

九月七日〜八日、犬山市・名鉄犬山ホテル

今年も夏の一滴研修会の時を迎えた。九月七日、八日の二日間、場所は三年ぶりに名鉄犬山ホテル。日差しはまだまだ厳しいが、朝夕には秋の気配も。各地でゲリラ豪雨が多発する中、幸いにも好天に恵まれ犬山城

が美しく映える。参加者総数百五十六名で昨年より十二名増。毎年この増加傾向、是非定着なりますように。

午後二時。中日新聞社より名匠狂言会のお知らせの後、研修局間瀬清園常任理事の司会で



いよいよ開始。安藤清舟副会長の開会の言葉に続いて、風岡五城会長、豆子甲水之名誉会長の講話が二題（編集子要約を後記）。休憩をはさんで幹部の先生方七名による席上揮毫へと進む。風岡会長の講話「漢字の字体と字形」は、漢字教育、文字教育の側面から字形・字体、正しさの定義、ハネの問題、字形の特徴等を学問



的・体系的に分析して解り易く解説。豆子名誉会長「書道あれこれ」は、例によって書に対する愛情に満ち溢れ、確かな実体験に基づくユーモアたっぷりの名調子で、聴衆も時折笑い声をあげて魅了されていた。こうして両先生のお話を一時に拝聴で

(2)

きるのは、実に幸せな機会とあらためての実感である。そして席上揮毫は二組に分かれて頂いての実演で、観覧スペースも十分。各先生の自在の筆捌きを間近で子細に観られて好演出。あちこちのテーブルから歎声が上がっていた。最後に久野北崖副会長の閉会の言葉で、密度の濃い研修は幕を閉じた。その後夜の懇親会は、木村大澤理事長の挨拶、松浦白碩副理事長の乾杯で始まり、豆子名誉会長もカラオケに参加下さったりと、和やかに親睦を深めた。



要約者・加藤松亭